



沖繩が伝える 平和の大切さ

小林 諒さん(和泉・会社員・39歳)

今年の六月二十一日から二十三日まで、私は初めて沖縄へ行った。たまたま労働組合の関係で行くことになったのだが、ちょうど本土復帰二十周年の年に素顔の沖縄を見ることができたのはうれい。

自然の美しさ、リゾートも良かったが、私が一番心を打たれたのは、今なお残る戦争の生々しい傷跡である。ひめゆりの塔、

平和祈念公園、摩文仁の丘で、戦争の激しさ、人間の愚かさ、悲しみなど、壮絶な最期を遂げた人々の声が伝わってきた。そこは沖縄県民の戦争に対する怒りを残していた。

日本は第二次世界大戦で敗戦した。今、戦争を知らない世代が五〇%を超えた。ほんの少し前の実に多くの人々の犠牲も、忘れ去られようとしている。今、私たちの豊かな生活環境の中で、戦争のむごさ、人々の受けた苦しみなどはどこかに消えてしまいうで怖い。

戦後、アメリカの保護があり、平和憲法があり、もちろん日本

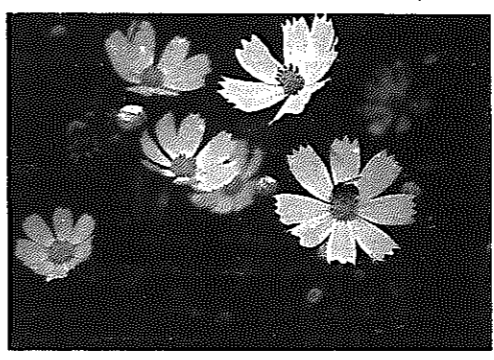
人の勤勉な労働によって、日本は平和で豊かな国になったようだ。そして世界から日本に求められる役割、期待は大きい。世界のあちこちで貧困にあえいでいる国や、戦争で苦しんでいる国がある。日本は絶対平和を願う国、戦争にかかり合いを持たず、世界の平和のために行動する国になりたい。私たちはその責任を持つ。自らの生活充

実を目指すとともに、次の世代に平和な社会を引き継ぎたい。もう一つ沖縄での思い出に、温かく笑顔で迎えてくれた友人との再会、さらにほんのひとときの出会いがあった。それほど深い面識もなかった私に、大変親切にいただいたこと、人に対する優しさ。何よりも大切な人間社会での基本がここにあるような気がする。

市民談話室

原稿募集

11月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考えていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整課 広報広聴係 (☎373-2111) (F333) です。



湖底に沈んだ民話の里 猿ヶ京の小さな旅

成沢 文子さん(西笠巻・主婦・65歳)

「湖底に沈んだふるとが民話に生き...」こんな見出しの旅の本に誘われて、私は一泊二日の小さな旅を思いつきました。

新幹線で目的の駅に降り立った私は、期待で胸をふくらませ、宿に着きました。早速、民話の湯に飛び込みます。小さいころを思い出す板戸のおび戸を開けると、いろり。そこには赤々と火が燃え、鉄瓶に湯が煮えだぎっております。ふっとタイムスリップしたようです。「手の白い猿が人間の赤ん坊の大病を治した」という伝説があり、その伝説を村人が湯の中で語り継いだといわれます。その民話が静かに流れています。夜はいろり

を囲み、語り部の話す民話に耳を傾け、夜の更けるのも忘れるようでした。

翌日は素晴らしい天気。緑の絵の具を流したような赤谷湖。ここは村全体が湖底に沈んだという悲しい物語の湖です。その湖を見ながら野仏巡り。道々に寄り添うように立っている道祖神にお参りし、秦寧寺の高い石段を上り詰めたとき、私は歓声を上げました。そこにはカタクリの花の群生。鉢植えでしか見たことがないウラボシ草、イチリン草、運咲きのシヨウジョウバカマが私の目を楽しませてくれました。

一泊二日ではありましたが、私にとっては実り多い、そして心豊かになった小さな旅でした。



清川高原から帰って 待たれる「大風と歴史の館」

富山 よねさん(諏訪木・会社員・46歳)

高い山の中腹にあつて阿賀野川の景色が素晴らしい。その上お湯が最高です。ツルツルで、体の疲れがいつべんに吹き飛ばさうな心地にさせてくれます。

白根にも何か観光施設があればと思うのですが、幸い「しろね大風と歴史の館」の建設が近々始まるようです。実際、今のままではお客様を案内するにはちょっと恥ずかしい思いがします。



旅行のたびに思うこと 白根にも観光施設を

木村 清平さん(中央通クリーニング業77歳)

私は旅行が好きで、年に三、四回、一泊か二泊の旅行に出掛けます。名所旧跡の見学旅行は楽しいものですが、そのつど白根にもこんな所があったらと、うらやましく思います。

去る五月に安曇野のワサビ農園の見学に行きました。一面のワサビ田が広々と広がっているだけです。非学私の目では特別な名所旧跡でもないような田んぼなのに、よくこれだけの観光客が来るのだと感心いたしました。何しろ年間の観光客が



ごみ集積所に思う 各自が責任を持とう

川崎 明子さん(戸石新田・主婦・35歳)

休みの続いた翌日のごみの収集場所は、どこもごみの山と化している光景を目にします。私

がごみを出す場所は県道に面した所です。世帯数に比べて収集箱が小さいのか、ごみがいつも

す。ですから、新しい建物ができるときは、街の活性化を図る意味でも素晴らしいことだと思います。伝統ある白根の大風合

戦の模様が年中楽しめる、街の観光の目玉になるような内容の濃い館ができることを期待しております。

道路にまではみ出して、少なからず交通の障害になっているような状況です。

また、収集箱が県道に面しているため、出勤途中の世間の人

市民文芸

俳句

脚立背に結かへしとて桃枝ぎに 五十嵐寛吾
野球好きカレ！大好き日焼けの子 小林 光子
風乾きして千袴の皺深し 成沢 素明
烏瓜花のレースを編み終へし 公條 雪夫
桃の実の熟れあし早き極暑かな 山田 孝
一輛の電車夏草ゆらしゆく 堀内ナナ子
盆近し子等の帰省日確かむる 笠原 里津
藍の色深き老舗の夏暖簾 和泉 伸子
今朝咲きし朝顔同じ色ばかり 木村 トリ
淡き夢消ゆるごとくに逢花火 (以上大風会)

短歌

通院途中肌寒くしみる朝夕に 長谷川久二
バス停に待たし時間を待たらうる 小出熊四郎
かへり見る事すら恐ろし終戦の 焼野ケ原ぞ今の東京
十五夜の月を待ちし川端に

川柳

先を競ぎつススキ出初むる 小出よし
若、貴の白星なればなはたのし 天 一服を操り下げて観る 中村 京
本丸も若も佐川の水浸し 中村 尚治
臍曲げる度に遺言書き換える 西条 ムラ
再建の希望は捨てぬウサギ小屋 早川 英男
つかの間の幸せだった泥の舟 山岡 フミ
落陽に影が揺れるる肩車 吉川 彰
人情が乾き切つてる都市砂漠 米野 光雄
ジョークには弱い日本人の臍 今井 七郎
拘りはみんな捨てよう青い空 織田 福治
古い二人希望の灯り追いつづけ 織田 セツ
聖職もこっそりしてる立小便 後藤マサノ
香煙の中から父母の顔が浮き 佐藤トミノ
檜山へ登る日近くなる夕陽 佐藤 ヨキ
表札を女房の名前にしたい家 高橋祐四雄
お似合いのお世辞に負けた試着室 田中 成子
決定は同じ格の多数決 田村 恒夫
見せかけの人情もあり百鬼夜行 竹石 甚五



労働時間の短縮により、どこ



木村 清平さん(中央通クリーニング業77歳)

私は旅行が好きで、年に三、四回、一泊か二泊の旅行に出掛

去る五月に安曇野のワサビ農園の見学に行きました。一面の